

# 子ども会とは こんな集まり

## 子ども会とは、

隣近所に住んでいる子どもたちがメンバーとなって結成され、いろいろな活動を計画的・継続的に実施し、メンバー一人ひとりの人格をより豊かに形成していく集団をいいます。

子ども会は、義務的ではなく、子どもたち一人ひとりの自主性によって加入でき、活動できる、子どもたちみんなの会なのです。ですから、子ども会は、子どもを構成員とする集団ですが、子どもたちはいつも健全な活動ばかりするとは限りません。まだ経験に乏しく、思考力も十分ではないので、危険な活動やよくない遊びに興味をもつこともあります。また一人のときには、してはいけないとわかっていることでも集団になるとその場の勢いや雰囲気よくない方向に進んだりすることがあります。

そこで、子どもの集団がよくない方向に進まないように、さらに遊びの教育的価値を高めるための活動が行えるよう大人が愛情をもって見守り、よい環境の中で、活発な活動が展開できるよう仕向けていくことが大切です。その役割を果たすのが、指導者や育成者です。子ども会は、子どもを構成員とする集団に指導者と育成者とが加わって成立するわけです。

## 遊びは子どもの生活

最近の子どもたちは、あまり遊ばないと言われていています。しかもなかまと叢がって遊ぶ機会が少なくなっています。その理由として、遊び場の不足、交通事故の危険、塾通いなどが考えられますが、親や大人の遊びに対する考え方も子どもの遊びを消極的にしていることを見落とすことはできません。

大人の世界では、遊びは非生産的であり、よくない意味にとられがちです。だから、子どもの遊びについても小さいうちは特別気にしていなくても大きくなると机に向かって勉強することを強いるようになります。遊びは子どもにとって、大人の仕事と同様に重要なものであり、成長する上で栄養と並んで欠くことのできないものです。

## 遊びから学びとるもの

本来、子どもは戸外で自由に遊びたいと思っています。しかも気のあったなかまと一緒に遊ぶことを求めています。そこで、このなかまによる遊びをよく観察してみますと、

- みんなで遊びのルールを作り、そのルールの中で、自己の知的・体力的な能力をどのよう
- うに発揮したらよいかを学んでいます。
- 相手と意見の衝突などがありますが、遊びなかまが成立するためには、場合によっては自己の要求をおさえ、協調することの大切さやそのための方法を知ります。
- それぞれが与えられた役割の中で、自分はどんな行動をしなければならないかを理解しその責任を進んで果たそうと努力します。このように、子どもたちは遊びを通して連帯性、協調性、責任感などを養い、人間関係を学んでいるのです。

## 子ども会活動のねらい

子ども会活動のねらいを一言で表現すれば、子どもたちが立派な社会人となるための力を培うということです。子どもは、遊ぶなかまを求めており、遊びを通じて社会の一員として必要な知識・技能、及び態度を学んでいます。このような子どもの遊びの特徴をとらえ、健全ななかまづくりを進め、心身の成長発達に大切な活動を促進助長するのが子ども会です。

このような活動は、学校や家庭における教育とともに、欠くことのできない重要な教育活動であることを再認識しましょう。

一つの地区（単位）子ども会がなりたっている範囲は、子どもたちが住んでいる地域社会の中でも最も身近な地域社会における教育の場なのです。

このように、子どもたちは、学校、家庭、社会という三つの環境の中で、人格を形成していくチャンスをもっています。そして、そのチャンスを生かす努めをもっていることを自覚させなければなりません。

では、「立派な社会人となるための力」とは具体的にどういうことをいうのでしょうか。

それは、

- ①町を明るく、住みよくしようとする郷土愛を持っていること。
- ②なかま同士の連帯感を持っていること。
- ③自主性、協調性を持っていること。
- ④決まりを守る心が身についていること。
- ⑤物事を工夫する態度が身についていること。
- ⑥苦しさに負けず実行する力が身についていること。
- ⑦思いやりの心と反省する態度が身についていること。
- ⑧たくましい体力と豊かな心が身についていること。

などです。

以上のようなねらいをもって活動するのが「子ども会」ということになります。しかし、一つの活動で、これらのねらいをすべて盛り込むことは無理です。どの活動の一つ行うにしても、子どもたちの力を培う場面は幾つもでてくるはずで

子どもを豊かな社会の担い手にふさわしい人間として育てるために、子ども会活動を広く進めましょう。